

桑名市における令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果概要

はじめに

全国学力・学習状況調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策を検証・改善したり、学校における教科指導の充実や学習状況の改善等に役立てたりするために実施されています。

令和5年度は、4月18日（火）に実施され、市内の小学校6年生（27校：1,242人）と、中学校3年生（10校：1,121人）が参加しました。今年度は、国語、算数・数学の2教科に加え、4年ぶりに中学校で英語の調査も行われました。

I 教科の調査結果

各教科の平均正答率

*全国、三重県、桑名市いずれも公立校のみの結果を集計した値（単位は%）

*平成29年度より全国値以外は、小数点以下を四捨五入した整数値での公表

		国語	算数・数学	英語 (「話すこと」調査を除く※)
小学校	桑名市	65	62	
	全国	67.2	62.5	
	三重県	67	62	
中学校	桑名市	71	57	51
	全国	69.8	51.0	45.6
	三重県	69	51	45

※英語「話すこと」調査については、全国で抽出された当日実施校のみが、調査分析対象となります。桑名市では該当の学校がありませんので、参考値扱いとなり、数値の公表はいたしません。

桑名市における全体的な特徴

- 知識及び技能を問う問題は正答率が高い傾向
- 経年的な課題である無解答の割合は中学校において改善
- 経年的な課題である算数・数学における「変化と関係」・「関数」の正答率は改善
- 身につけた知識や技能を活かして、自分の考えをまとめて書くこと、表現することなどに引き続き課題がみられる
- 文章や図・表の読み取り、考察すること、分析・解釈することなど「読解力」に課題がみられる
- 経年的な課題である算数・数学における図形領域の正答率は、引き続き課題がみられる

次ページより各教科、児童生徒質問紙、学校質問紙の結果から、桑名市の特徴等を紹介いたします。問題の内容等に関しては、『国立教育政策研究所 教育課程研究センター』HPにも掲載されておりますので、ご参照ください。

<https://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm>



各教科の桑名市における特徴 小学校国語

各教科、全国と比べ正答率が特に高い問題を強みとして、
正答率が低い、または無解答率が高い問題を弱みとして、
特徴的なものを紹介します。

強み

◎要約するときの中心となる語や文を見極め、選択する問題

正答率
約9割

【大問 2】の概要

健康に過ごすために、運動と食事に関する複数の本や資料を読み、自分の考えをまとめる問題。

〔設問一〕

提示された複数の資料に書かれている内容から、目的を意識し、中心となる語や文を見付けて要約したものを、選択する。

私たちが日ごろ行っている運動には、いくつかの種類があります。例えば、体にたくさんの酸素を取り入れながら続けることで持久力を高める運動や、瞬間的に大きな力を出すことで筋肉の力を高める運動などです。

【資料1】より抜粋

運動には、筋力や持久力などを高めるほかに、病気への抵抗力を高める効果もあります。また、運動によって気持ちがリフレッシュするなどの効果もあります。

【資料2】より抜粋

多くの児童が、【資料1】で運動の種類、【資料2】で運動の効果について、書かれています。見極められました。

【選択肢】

- ① 運動の効果や種類
- ② 運動の回数や場所
- ③ 運動の場所や種類
- ④ 運動の効果や回数

弱み

▲図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるよう工夫して記述する問題

正答率
約2割

【大問 1】の概要

米作りについての問題点と解決方法を説明する文章を書く場面を想定した問題。

〔設問二〕

学校の米作りの問題点とその解決方法について、自分ならどのように書くかを条件に合わせて記述する。

<条件>

- ・学校の米作りの問題点については、文中のグラフ(農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量)と【カード④】のそれぞれから分かることを書くこと。
- ・問題点の解決方法については、【カード⑤】をもとにして書くこと。
- ・60字以上、100字以内にまとめて書くこと。

【川村さんの文章】

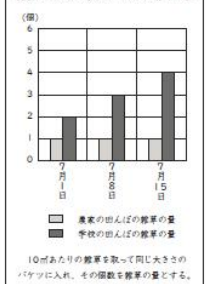
学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしょうかくすることができました。しょうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下旬に学校の田んぼにええを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、アいがいに雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼと学校の田んぼとくらべてみました。うきさんは7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。

農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量



このようなことに取り組み、9月の下旬にお米をしょうかくすることができました。

【カード④】

7月20日

【農家の石山さんのお話】

- ・雑草に栄養をとられると、米のしょうかくが減る。
- ・雑草が多いと、いねが病気になることがある。
- ・農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。

【カード⑤】

7月21日

【学校でできる解決方法】

- ・雑草取りの回数を増やす。
- ・雑草取りの人数を増やす。

すべての条件を満たしていない誤答が、
約6割ありました。

強み

◎比例の関係ではないことを説明するために、適切な数の組み合わせを表から選択する問題

正答率
約9割

【大問1】の概要】

椅子を重ねたときの椅子の数と高さや重さの関係などについて考える問題。

〔設問(2)〕

椅子の数と高さの関係が比例の関係になっていないことを表の中の数を使って文章を完成させる。

多くの児童が、表の中の適切な数の組を用いて、考察することができていました。

(2) はるまさんたちは、いすの数と高さの関係について考えています。

いすの数(きゃく)	1	2	3	4	5
高さ (cm)	45	51	57	63	A

はるま: 高さはいすの数に比例しているのでしょうか。

ゆうな: いすの数が2倍になっても、高さは2倍になっていないので、高さはいすの数に比例していません。

「いすの数が2倍になっても、高さは2倍になっていない」ことを、表の中の数を使うと、次のように説明することができます。

いすの数が ㉗ きゃくから ㉘ きゃくと2倍になっても、高さは ㉙ cmから ㉚ cmで2倍になっていません。

上の㉗、㉘、㉙、㉚にあてはまる数を、表の中の数から1つずつ選んで、書きましょう。

弱み

▲テープを直線で切った二つの三角形の面積の大きさについて考える問題

正答率
2割以下

【大問2】の概要】

テープの切り方を変えて作った図形について考える問題。

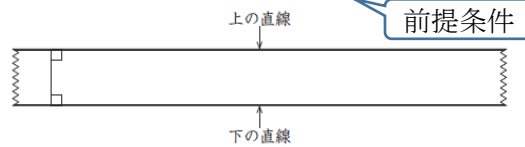
〔設問(4)〕

同じテープを切って作った2つの三角形の面積の大小について、分かることを選び、理由を記述する。

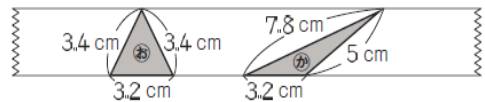
テープの幅はどこも等しいという前提条件が問題文に記述されていましたが、「高さが分からない」ことを理由として、「4 このままでは比べることはできない」を選択している児童が約2割いました。

2

えいたさんたちは、テープを持っています。テープの上の直線と下の直線は平行で、テープのはばはどこも等しくなっています。



(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㉕と㉖の2つの三角形をつくります。



上の㉕と㉖の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㉕の面積のほうが大きい。
- 2 ㉖の面積のほうが大きい。
- 3 ㉕と㉖の面積は等しい。
- 4 ㉕と㉖の面積は、このままでは比べることができない。

強み

◎読んだ文章を参考に、知識や経験に触れながら書く問題

正答率
7割以上

【大問2】の概要】

「本の読み方」についての説明的な文章をもとに考える問題。

〔設問四〕

複数の文章で述べられていることを参考にして、自分ならどのように考えるか、着目したところを抜き出したうえで、経験や知識に触れながら書く。

多くの生徒が、自分の経験や知識に触れながら、提示されている文章から着目する点に基づき適切に記述できていました。

【A】の文章より抜粋

(前略)本を再読する時には、前に読んでいた時と違って同じ本でも違った読み方ができます。忘れたわけではなく、あえて同じ本を何度も読む人もいます。(中略)

以前より必ず成長しなければならぬわけではありませんが、今の自分が前に読んだ時とは違うと感じられるというのも読書の楽しみの一つだと思います。

【B】の文章より抜粋

ある作家の全集を読むのは非常にいいことだ。研究でもしようというのでなければ、そんなことは全く無駄だと思われがちだが、決してそうではない。読書の楽しみの源泉にはいつも「文は人なり」という言葉があるのだが、この言葉の深い意味を理解するには、全集を読むのが、一番手取り早いしかも確実な方法なのである。(後略)

【問題文(抜粋)】

中山さんは【A】や【B】の文章で述べられていることを参考にして、自分の本の読み方について考えました。あなたなら、これからどのように本を読んでいきたいと考えますか。

弱み

▲文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして書く問題

正答率 6割以下
無解答率 約2割

【大問4】の概要】

「竹取物語」を題材に、古典の原文と古典に解釈を加えて現代語で書かれた作品とを読み比べる場面から考える問題。

〔設問三〕

現代語で書かれた作品について、どのように工夫されているか、提示された資料に書かれている表現を取り上げて自分の考えを書く。

他の問題と比較し、無解答の生徒が約2割と非常に多く課題です。

また、どのように工夫されているかは記述できているものの、表現を取り上げて記述できていない生徒が約2割いました。

授業で読んだ「竹取物語」の一部【原文】の文章より抜粋

今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきの造となむいひける。(後略)

授業で読んだ「竹取物語」の一部【現代語訳】の文章より抜粋

今ではもう昔のことだが、竹取の翁という者がいた。野や山に分け入って竹を取っては、いろいろなことに使っていた。名前を、さぬきのみやつこといった。(後略)

学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部の文章より抜粋

むかし、竹取じいさんと呼ばれる人がいた。名はミヤツコ。時には、讃岐の造麻呂と、もっともらしく名乗ったりする。野や山に出かけて、竹を取ってきて、さまざまな品を作る。笠、竿、箒、筆、箱、筒、箸。(後略)

【問題文(抜粋)】

【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】は、古典の作品である「竹取物語」に、作家の星新一が工夫を加えて現代語で書いたものです。どこがどのように工夫されていると考えられますか。【授業で読んだ「竹取物語」の一部】や【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】の表現を取り上げて、あなたの考えを書きなさい。

強み

◎文字を用いた式の四則計算をする問題

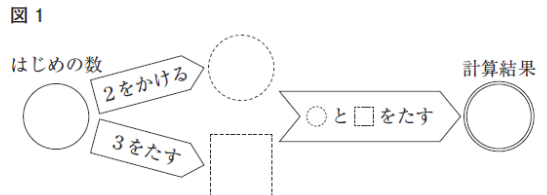
正答率
約9割

【大問2】の概要】

$12\left(\frac{x}{4} + \frac{y}{6}\right)$ を計算する。

基礎基本がしっかりと定着しており、応用問題にもつながる力がついていると考えられます。

6 次の図1のように、はじめの数として○に整数を入れて計算し、計算結果を求めます。



夏希さんは、はじめの数として○にいろいろな整数を入れて計算しています。例えば、はじめの数が1、4、-5のときは、それぞれ下のような計算になります。

大問2以外でも、「数と式」の分野は、特に定着していることが分かる結果となりました。

弱み

▲データの傾向を捉え判断の理由を
数学的な表現を用いて説明する問題

正答率 4割以下
無解答率 2割以上

【大問7】の概要】

イチヨウの葉の黄葉日の60年分のデータから傾向を読み取り、批判的に考察し判断する問題。

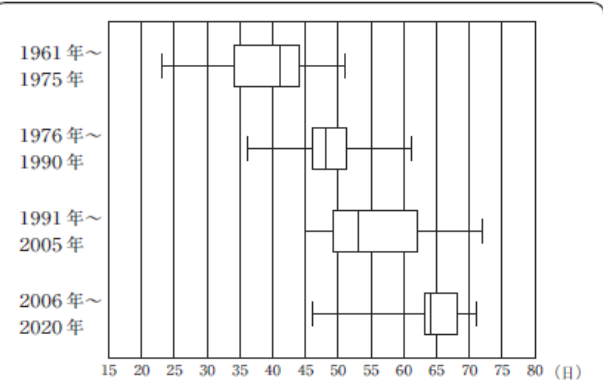
〔設問(2)〕

「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年より遅くなっている傾向にある」と主張できる理由を箱ひげ図の箱に着目して説明する。

他の問題に比べて無解答が多く、2割以上ありました。

また、「箱ひげ図の箱」に着目しているものの、主張の根拠となる箱の位置や四分位数の違いに気づけていない誤答が2割以上ありました。

黄葉日までの経過日数の分布



	経過日数(日)				
	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
1961年～1975年	23	34	41	44	51
1976年～1990年	36	46	48	51	61
1991年～2005年	45	49	53	62	72
2006年～2020年	46	63	64	68	71

強み

◎文と文との関係を正確に読み取ることができる問題

正答率
7割以上

【大問7】の概要】

「町の図書館」について書かれた英文から考える問題。

〔設問(1)〕

文と文との関係を正確に読み取り、文中の空所に入る適切な語句を選択する。

正答率が高く、文と文との関係を正確に読み取ることができています。

Libraries today are more creative than in the past. The library in our town is more creative, too. We can do a lot of things there. We not only read books and watch DVDs at the library, but also enjoy events like book talks, puppet shows, and workshops about making picture books.

There are many kinds of spaces, too. (), people can read books on sofas, on *tatami* mats or in the library cafeteria. They can relax and read books anywhere. They can use small rooms for studying, meeting, or working.

Our creative library can connect people. One of my friends likes making picture books now after he joined a workshop at the library. He sometimes asks the library staff questions about making picture books by email even now. Also, while some kids are reading together on the *tatami* mats, their parents can become friends with each other.

I hope all of you visit our creative library in the near future.

弱み

▲社会的な話題について、書き手の意見に対する自分の考えと理由を英語で書く問題

正答率 約3割
無解答率 2割以上

【大問8】の概要】

ロボットについて書かれた英文をもとに考える問題。

〔設問(2)〕

社会的に数多くみられるようになったロボットについて書かれた書き手の意見に対して、自分の考えと理由について英語で記述する。

他の問題と比較して、無解答率が高く2割以上ありました。

書き手の意見に対して自分の考えの表明はできているものの理由まで記述できていない解答が約3割ありました。

Today we see many kinds of robots around us. They are helpful.

When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I



could talk to the robot in English or other languages. At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets.

As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?



「がんばり」 発見！！

このコーナーでは、全国や県の平均正答率との比較、桑名市の経年的な課題等から、桑名の児童生徒にがんばりがみられたことを紹介をしています。

「変化と関係」の記述問題で無解答率改善！

※無解答率：解答しなかった（無記入）子どもの割合

小学校算数

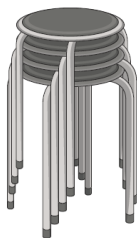
①

(3) いす4きゃくの重さをはかると、7 kgでした。

このいす48きゃくの重さは、何kgですか。

求め方を式や言葉を使って書きましょう。また、

答えも書きましょう。



正答率は高いというわけではありませんが、記述問題に取り組む児童が増加しました。

経年的な課題である「変化と関係」の領域の中の「記述式」問題であった大問1設問(3)の無解答率は全国平均よりも低く、「求め方を式や言葉を使って書く」問題に取り組む児童の様子が見られました。多くの児童が取り組み、正答率も全国平均を上回り、がんばりが見られました。ねばり強く、課題に取り組もうとしていると考えられます。

令和2年度から小学校でも「英語」が教科化され、調査に参加した中学3年生は、小学6年生時より英語を教科書で学んできました。

小学校では、コミュニケーションを図る基礎となる力を育むことを目標として、身近で簡単な事柄について自分の考えや気持ちを伝え合う活動を行っています。

中学校では、身近なことに限らず、日常的话题や社会的な話題についても、理解したり表現したり、自分の考えを伝え合ったりする活動を行っています。

「読む」、「聞く」、「書く」の3技能すべての領域において、無解答率が全国平均より低く、英語科の調査にも意欲的に取り組む姿勢が見られました。

⑥ 次の英文は、友達のアレックス (Alex) があなたに送ったメールです。メールを読んで、アレックスにおすすめのイベントとして最も適切なものを、右の1から4までの中から1つ選びなさい。

Events on the Weekend	
Date	April 13, 2023 18:45
From	David
Hello. How are you? I'm excited to stay at your house this weekend.	
I hear your town has some events on the weekend. I want to join one of them with you. Which event is the best? We both love sports, music, and cooking, right? Let's choose from among them.	
I will arrive on Saturday afternoon. I have to leave before 4 p.m. on Sunday because I will have dinner with my family.	
I'm looking forward to seeing you soon.	

令和元年度調査と比較し、全体的な無解答率が低くなりました。

中学校英語

<p>1 Rugby Game</p> <p>Let's watch together!</p> <p>Date & Time Saturday, April 15 9:30 a.m. - 11:30 a.m.</p> <p>Place Midori Park</p>	<p>2 Flower Market</p> <p>You can buy beautiful flowers!</p> <p>Date & Time Saturday, April 15 9:00 a.m. - 4:00 p.m.</p> <p>Place Hikari Garden</p>
<p>3 City Orchestra</p> <p>You can enjoy a wonderful performance!</p> <p>Date & Time Sunday, April 16 1:00 p.m. - 3:00 p.m.</p> <p>Place Tsubomi Hall</p>	<p>4 "Cook & Eat"</p> <p>Let's enjoy cooking and eating!</p> <p>Date & Time Sunday, April 16 4:00 p.m. - 7:00 p.m.</p> <p>Place Cooking Room "Wakaba"</p>

英語科でも無解答率が改善！

学力向上に向けた取組

以上のように、全国学力調査結果に見られた強み・弱みを踏まえ、市では、授業改善の取組をさらにすすめていきます。

こんな力をつけたい

- 社会の中で生きて働く知識・技能の習得
- 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力
- 課題解決のための構想（見通し）を立て実践し、次に活かしていく力

こんな授業にしたい

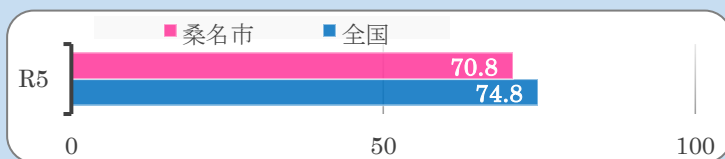
- 自分で考え、調べ、表現する授業
- 仲間や教師の考えや意見を自分の考えと比べながら聴くことができる授業
- 「わかったこと・わからなかったこと」「さらに学びたいこと」などを振り返り、次の学びにつながる授業



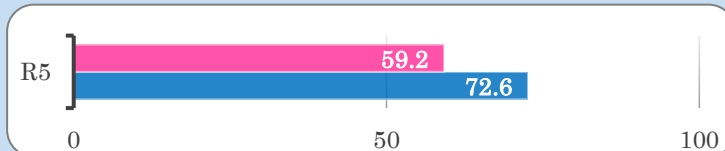
全国学習状況調査（児童生徒質問紙）より

「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」という質問に対し「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合

【小学生】



【中学生】



桑名の児童生徒の割合は、小中とも全国平均に届いていない現状があります。

急激に変化する今後の社会の担い手である児童生徒には、学んだ知識を使って日常生活や社会における課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を身につけるためにも、探究的に学ぶ経験が大切です。

総合的な学習の時間を中心に、児童生徒の探究的な学びを充実させていく必要があります。

調査の結果は、今回、調査の対象となった小学6年生、中学3年生だけでなく、小中学校9年間のつながりを意識して、学校全体でよりよい授業づくりに活かしていきます。

Ⅱ 児童生徒質問紙の調査結果

児童生徒質問紙の調査とは、該当学年の児童生徒を対象にしたアンケート調査で、学習状況や生活状況について回答しています。これらの回答から見えた結果をもとに、桑名市の児童生徒の特徴的な姿を紹介します。

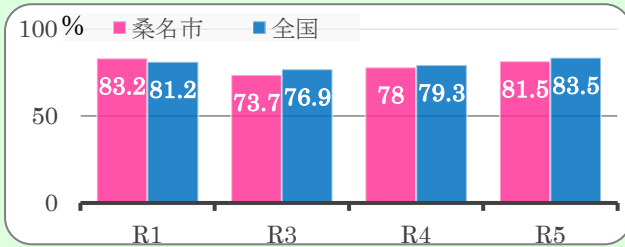
※グラフ内の数値は桑名市・全国の児童生徒数を100としたときの割合(%) ※R2年度は調査が実施されてないため表記していません

児童生徒の挑戦心、自己有用感、幸福感等に関わって

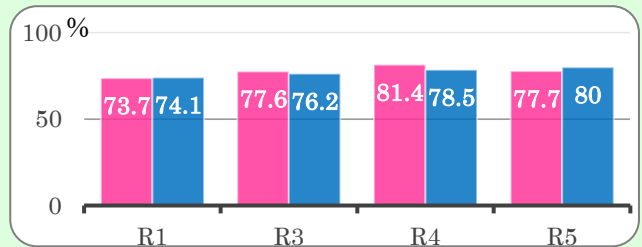
○自分には良いところがある

「良いところがあると思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学生ともに7割を超え、昨年度との比較において、小学校は上昇しました。しかし、全国平均よりやや低い傾向が続いています。

【小学生】



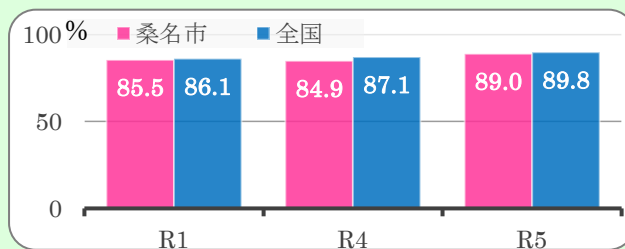
【中学生】



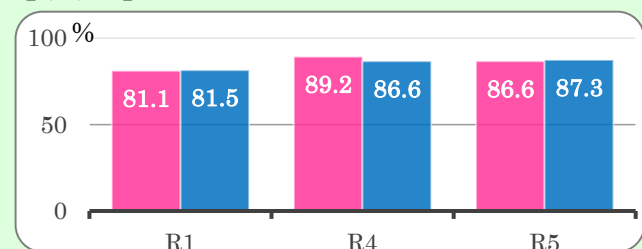
○先生は、よいところを認めてくれている

「先生は、よいところを認めてくれていると思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学生ともに8割を超え、高い傾向にあります。(令和3年度は同質問がありませんでした。)

【小学生】



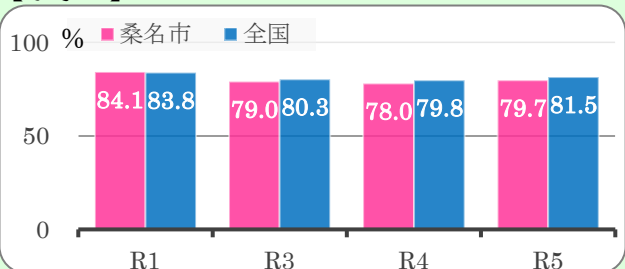
【中学生】



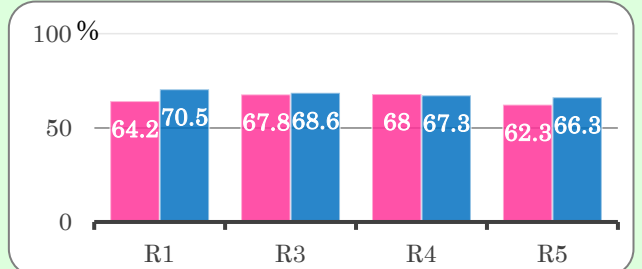
○将来の夢や目標を持っている

「夢や目標を持っている」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生は昨年度よりわずかに上昇、中学生は低下しました。

【小学生】



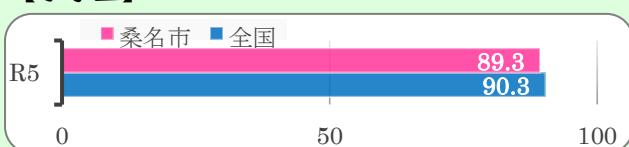
【中学生】



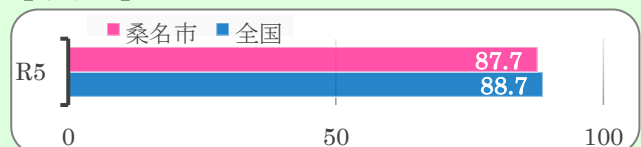
○友達関係に満足している

「友達関係に満足している」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、8割を超え、おおむね満足している傾向にあります。

【小学生】



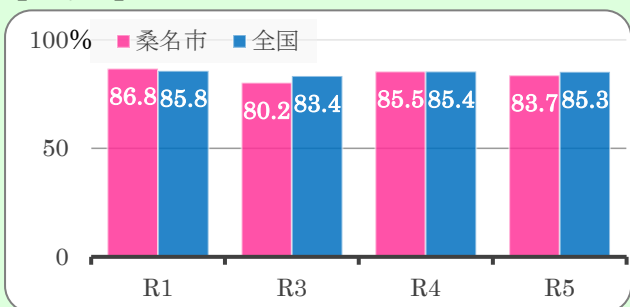
【中学生】



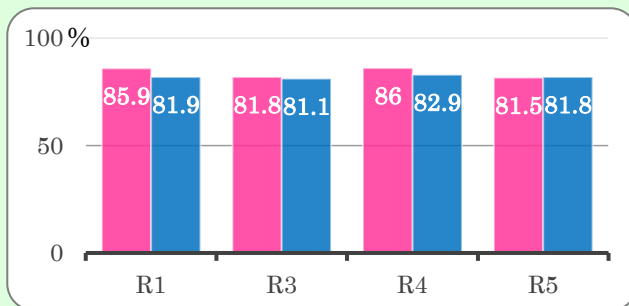
○学校に行くのは楽しい

「学校に行くのが楽しい」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、8割を超えていますが、昨年度より低下しました。

【小学生】



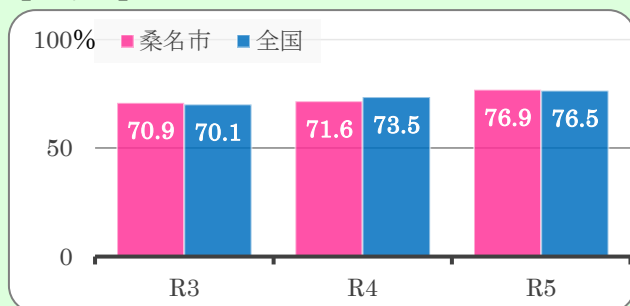
【中学生】



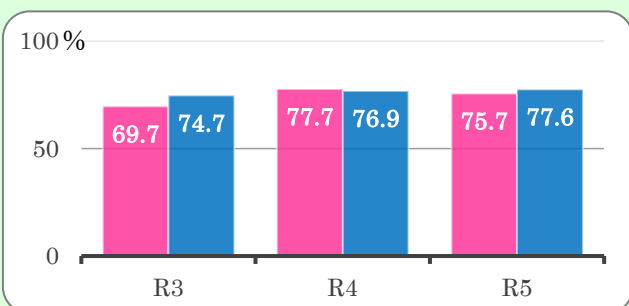
○自分と違う意見について考えるのは楽しい

「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、7割を超えています。特に小学生では前年度より大きく上昇しました。(令和元年度は同質問がありませんでした。)

【小学生】



【中学生】

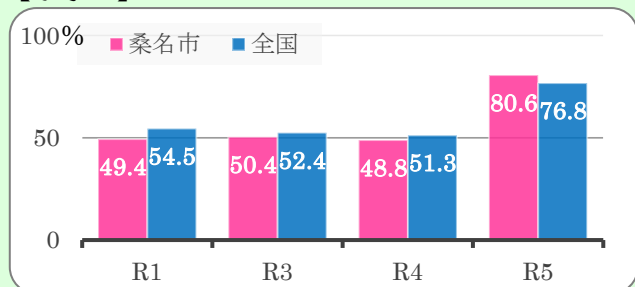


○地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う

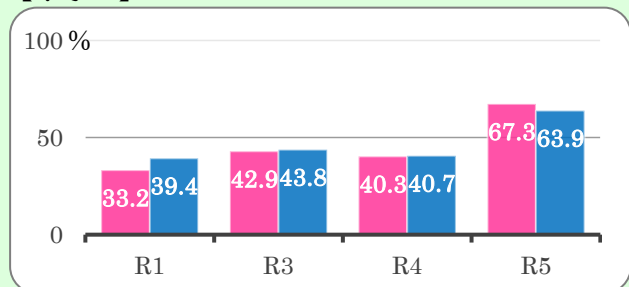
(R4まで「地域や社会をよりよくするために何をすべきか考えることがある」)

学習指導要領では、主体的に地域や社会と関わり、持続可能な社会を形成することが求められています。「地域や社会をより良くするために何かしてみたいと思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合は全国平均を超えました。昨年度までと質問の文言が変わったことにより、単純な比較はできませんが、引き続き小・中学生も地域の一員であるということ意識して活動する意欲と態度を培う必要があります。

【小学生】



【中学生】



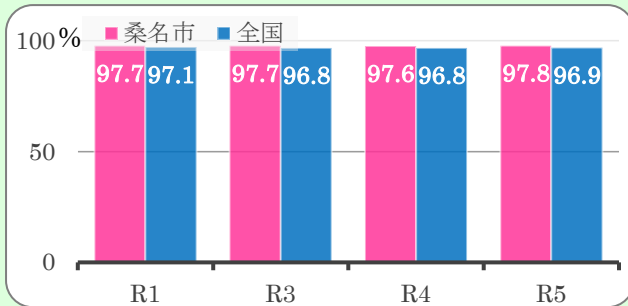
「自分にはよいところがある」と感じられない子どもを含めすべての子どもに対し、大人が「よいところ」を見つけ、ほめることは大切です。さらに、「よいところ」を見つけることだけでなく、その子自身のありのままの姿を認められるようになることが自己肯定感を育むことにつながります。「失敗したり、思い通りにならなかったりすることもあるけれど、自分の存在自体が価値のあるものであり、かけがえのない存在である」と自分のことを肯定的に認め、好きになれるような取組を大切にしていけます。

将来の夢や目標を持てる子どもたちを育てるために、学ぶことと自分の将来との関係を見い出しながら、必要な資質・能力を身につけていくキャリア教育等の充実を図っていきます。(人権教育課)

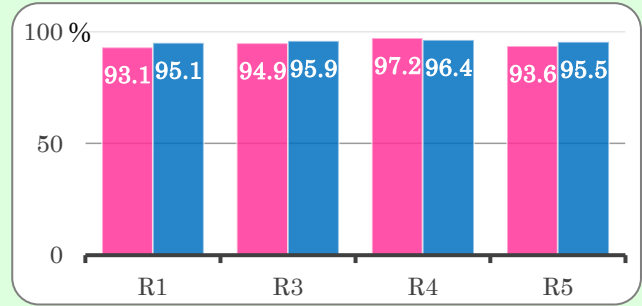
〇いじめはいけないと思う

「いじめはどんな理由があってもいけない」と回答した児童生徒の割合は、小・中学生ともに9割を超える状況が続いています。一方、そう感じていない児童生徒がいることは、引き続き取り組むべき課題です。

【小学生】



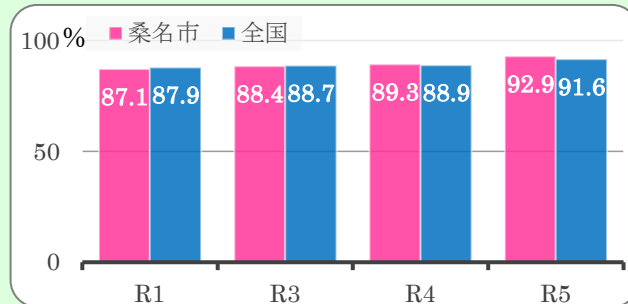
【中学生】



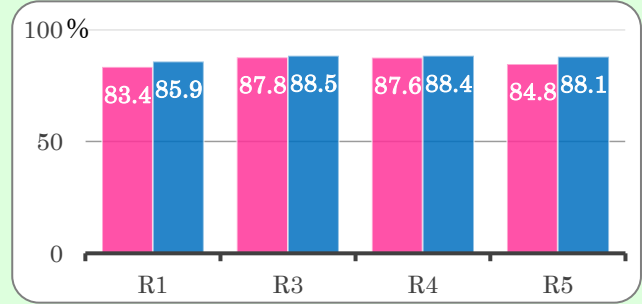
〇人が困っているときは、進んで助ける

「人が困っているときは、進んで助ける」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生で9割を超え、中学生でも8割を超えています。特に小学生では年々上昇傾向にあり、全国平均を超えています。

【小学生】



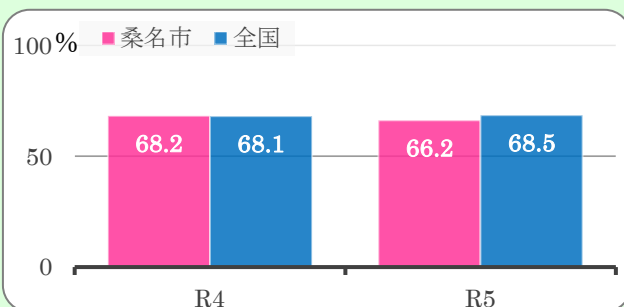
【中学生】



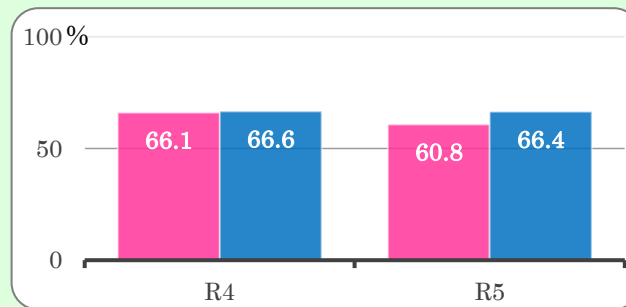
〇困りごとや不安がある時に、いつでも相談できる

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学生ともに7割以下に留まっており、昨年度よりも低下しています。(令和元、3年度は同質問がありませんでした。)

【小学生】



【中学生】



いじめの未然防止及び早期発見・早期対応をめざした取組については、道徳や人権学習だけでなく、毎年4月、11月を「いじめ防止強化月間」として、各学校において、児童生徒が主体的に、いじめ防止に向けて取り組む活動を行っています。自主的な活動を通して、相互理解、他者尊重を学ぶことで、自尊感情を高め、自ら行動できる力の育成に取り組んでいます。

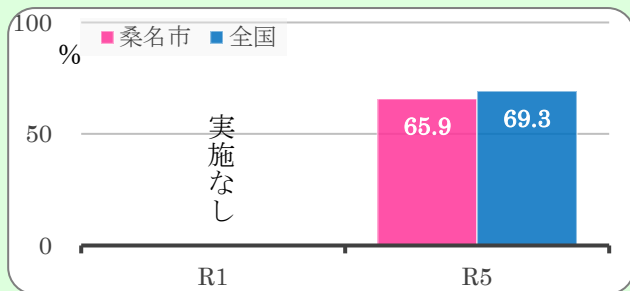
困りごとや不安を持っている児童生徒が安心して日常生活や学校生活を送ることができるよう、日頃から先生と児童生徒との関係づくりを大切にするとともに、学校だけでなく、専門性をもったスクールカウンセラーや身近な存在であるスクールハートパートナーの配置等、教育相談体制の構築に努めています。また、子どもや保護者の状況を十分に把握し、適切な機関等の情報を必要とする家庭への周知を継続して行っていきます。(学校支援課)

英語学習に対する興味・関心等に関わって（前回調査（R1）との比較）

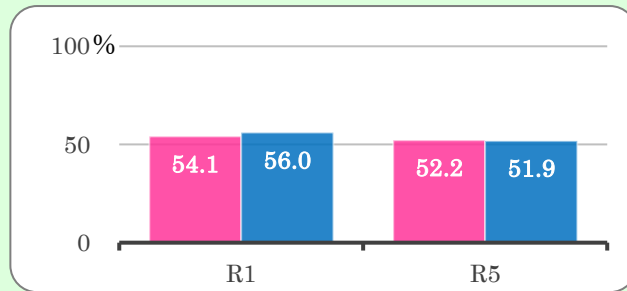
○英語の勉強が好き

「英語の勉強が好き」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生で6割を超えています、中学生では5割に留まっています。前回調査と比較して、低下傾向です。

【小学生】



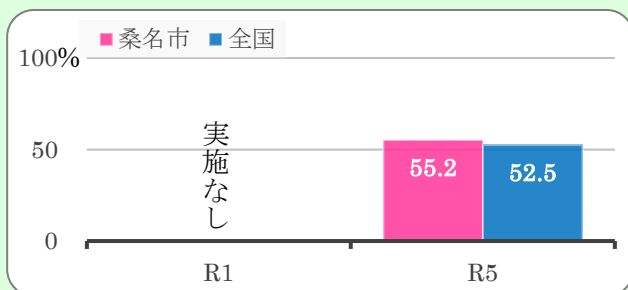
【中学生】



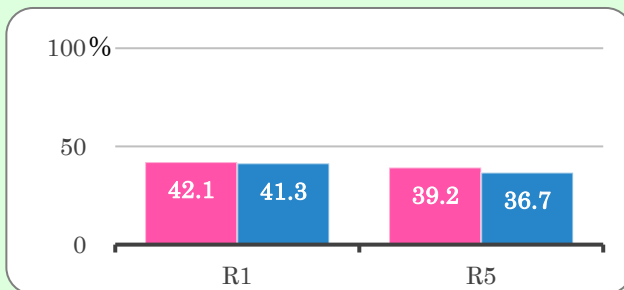
○将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたい

「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたい」と肯定的に回答した児童生徒は、全国平均を上回っています。

【小学生】



【中学生】

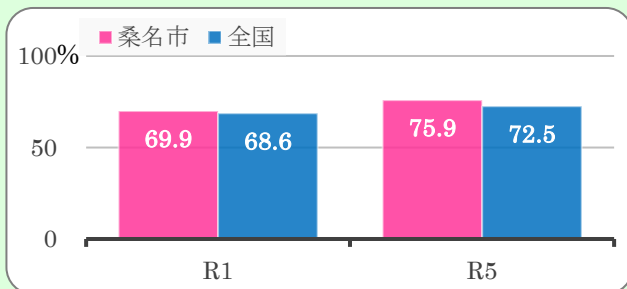


○外国のことを知りたい、外国の人に知ってもらいたい

「外国の人と友達になったり、外国のことをもっと知りたい」と肯定的に回答した児童生徒は、小・中学生ともに全国平均を上回っています。また、「日本や自分が住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたい」と肯定的に回答した児童生徒も含め、前回調査と比較し、上昇傾向にあります。

■ 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたい

【小学生】

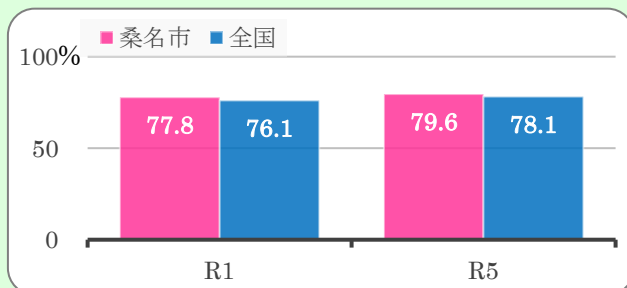


【中学生】

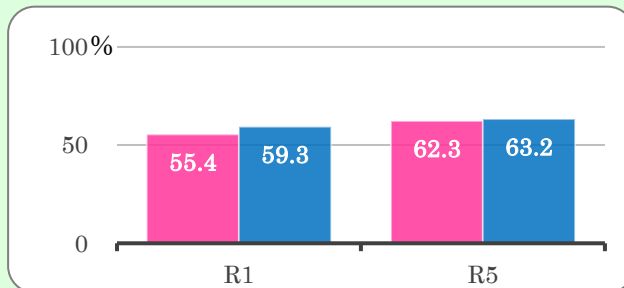


■ 日本や自分が住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたい

【小学生】



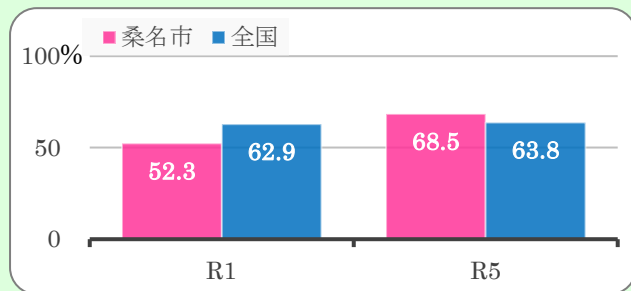
【中学生】



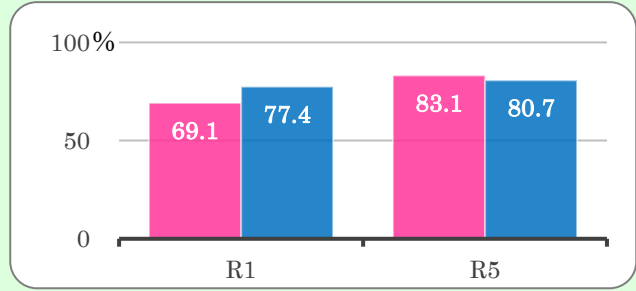
○英語の授業での活動(中学生のみ)

「即興で自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動をした」「生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動をした」と肯定的に回答した生徒は、全国平均を上回り、令和元年調査よりも大幅に上昇しています。

■ 原稿などを準備することなく、即興で自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動をした



■ 聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動をした



桑名市の英語教育では、小中一貫して、互いの考えや気持ちを伝え合う対話的な言語活動を大切にしています。小学校では、Small Talk (身近な話題について、自分の考えや気持ちを楽しみながら伝え合う中で、既習表現を繰り返し使用し、その定着を図るために行うもの) を行い、中学校では、自分の考えや気持ちなどを伝え合う活動を積極的に取り入れています。

また、習った英語を使って表現する場として、桑名子ども英語コンテストを実施し、桑名の自慢等を英語で発表する機会を設けています。

今後も、英語で自分の考えや気持ちを表現することを楽しみ、グローバル社会の中で、積極的にコミュニケーションをしようとする子どもたちを育てていきます。(学校支援課)

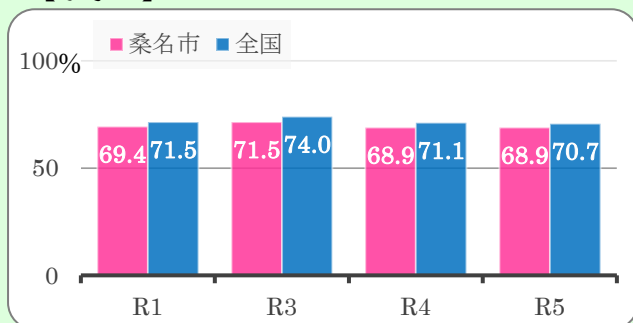
主体的な学びに関わって

○自らの行動を調整する

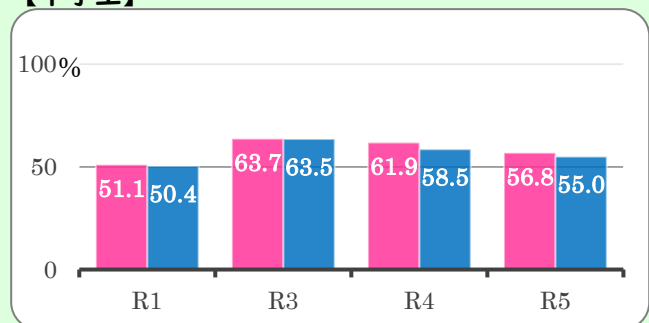
計画を立て実行する力は、主体的に学ぶために必要な力の一つですが、「家で自分で計画を立てて勉強をする」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、中学生では全国平均を上回っているものの、小・中学生ともに高いとは言えません。平日1日当たりの勉強時間は、中学生は、全国とほぼ同様の分布になっていますが、小学生については全国平均は「1時間以上」が一番多い分布となる中、桑名市は「30分以上」が最も多く、全国と比べ、短い傾向にあります。

■ 家で、自分で計画を立てて勉強をしている

【小学生】

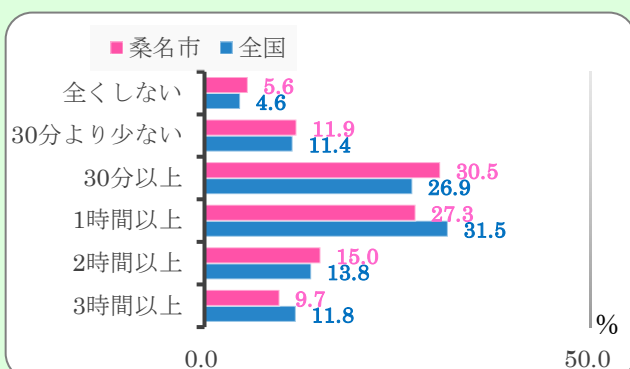


【中学生】

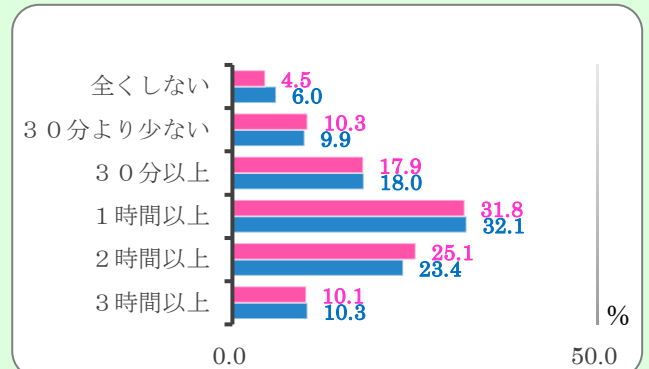


■ 平日、1日当たりの勉強時間

【小学生】



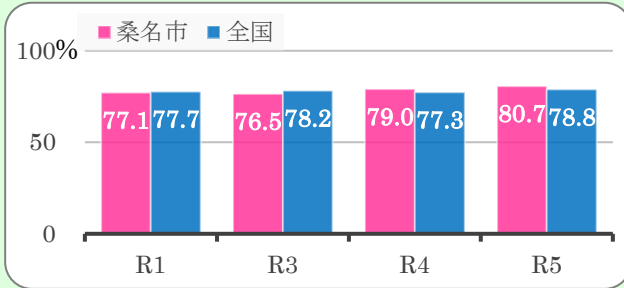
【中学生】



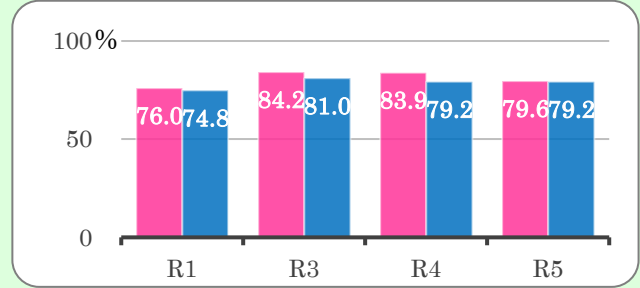
○授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる

各教科の授業では、学習の結果のみならず、学習者が知識を相互に関連付けて深く理解する、問いを見出して解決策を思考する、考えをもとに表現するといった、学習の過程を重視しています。そして、学習者である子どもたちには、自らの学習を調整しながら、粘り強く取り組むことが求められています。「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学生ともに、全国平均より高くなりました。

【小学生】



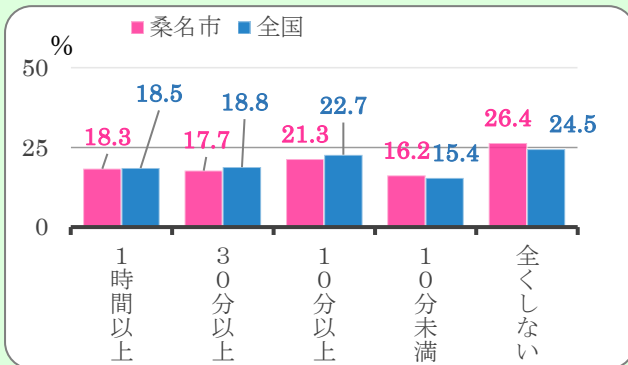
【中学生】



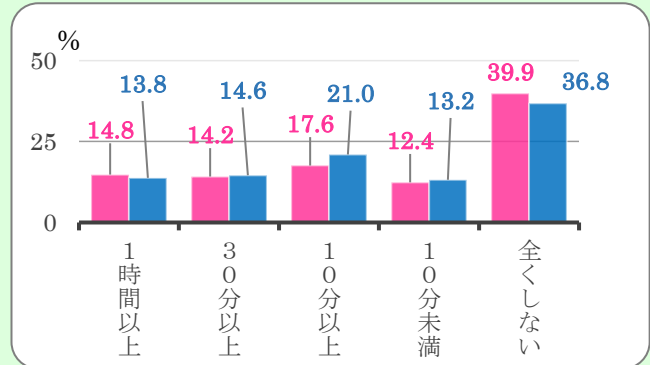
○読書について

「授業時間以外に、平日1日当たりどれくらい読書をするか」という質問に「全くしない」と回答した児童生徒の割合は、全国平均と比べ高くなっています。また、「読書が好き」と肯定的に回答した児童生徒の割合も、全国と比べ低くなっています。読書習慣の定着に向け、小学校では、読み聞かせや読書の時間を充実させること、中学校では、委員会を中心とする本の紹介活動等に取り組んでいます。児童生徒が読書の面白さを感じ、読書に対する興味を広げるための取組を、より一層進めていく必要があります。

【小学生】



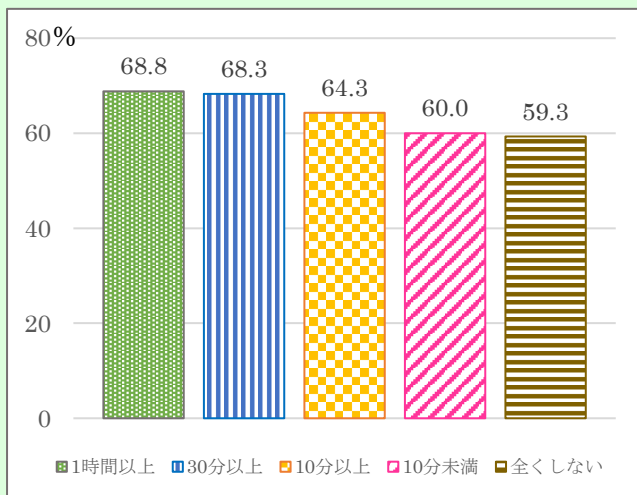
【中学生】



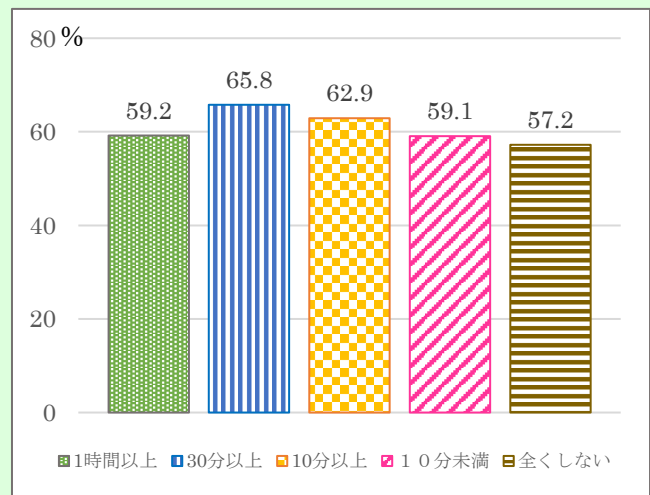
学力との相関関係(国語、算数・数学の平均)について

1日当たりの読書の時間と学力との相関関係を示したグラフからは、読書時間が長い児童生徒の学力が高い傾向にあることが分かります。

【小学生】



【中学生】

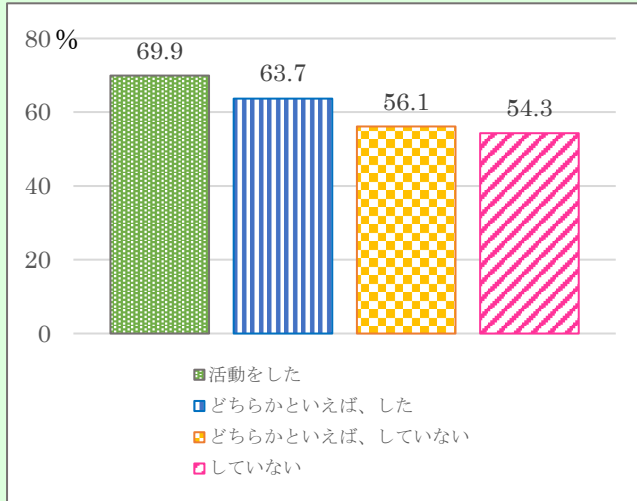


○アウトプットをする活動と学力の相関について

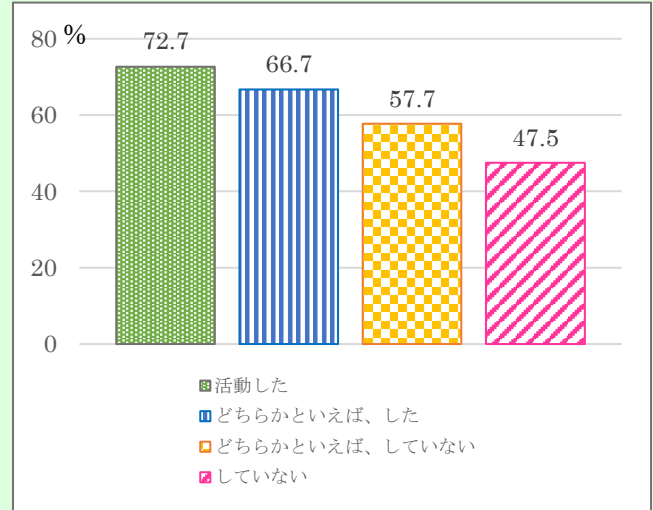
「これまで受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」と肯定的に回答した児童生徒は、小学生で77.0%（全国：74.4%）、中学生で67.1%（全国：69.1%）でした。

学力との相関を示したグラフからは、各教科で学んだことをアウトプットする活動を「した」と答えた児童生徒の学力が高いことが分かります。

【小学生】



【中学生】

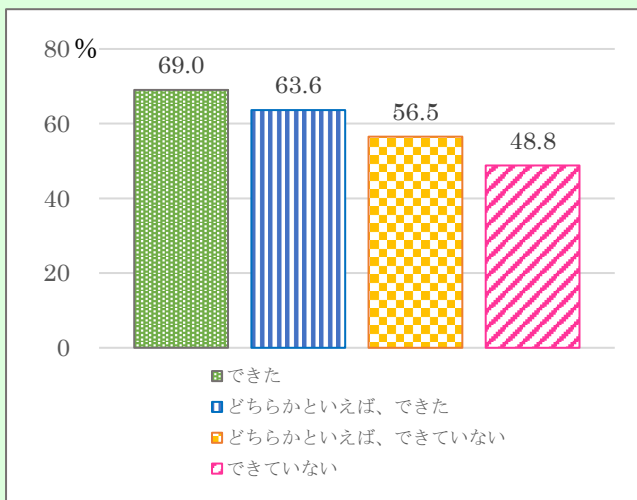


○学びのふりかえりと学力の相関について

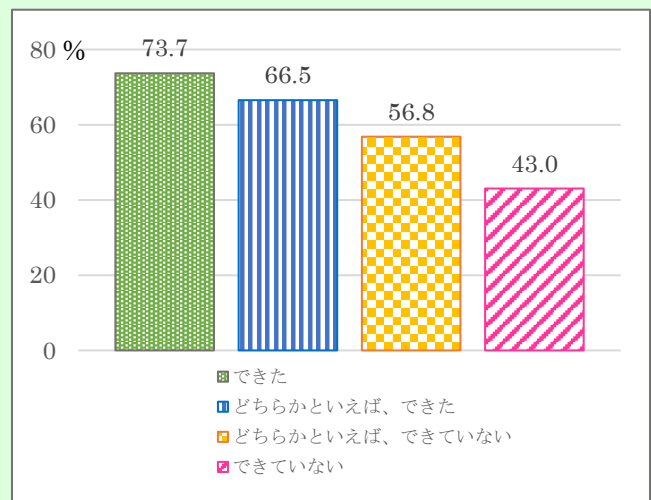
「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と肯定的に回答した児童生徒は、小学生で80.6%（全国：77.4%）、中学生で69.4%（全国：69.2%）でした。

学力との相関を示したグラフからは、「自らの学びをふりかえり、次の学びにつなげることができる」と回答した児童生徒の学力が高いことが分かります。

【小学生】



【中学生】



学習指導要領では、「社会に出てからも学校で学んだことが生かせること」が重視されています。児童生徒は、教科の枠を超えて、自ら問いを持ち、その解決に向けて、必要な情報を読み取ったり、既習の知識を活用したり、考えを表現したりすることを、総合的に学ぶことが必要です。

桑名市では、児童生徒が学習したことの意義や価値を実感し、学習と生活とを結びつけられるような授業づくりに取り組みます。

そして、子どもたちの「できた」（他者の）役に立った」という充実感や「もっと知りたい」という思いが、次の学びへの意欲になるような学習をより一層推進していきます。



おわりに

桑名市教育大綱では「夢を持ち、その夢に向かって努力する子を育てること」を基本理念としています。また令和2年度から小中一貫教育を導入し、9年間の縦のつながりを大切にした教育を進める中で、児童生徒一人一人に、これからの社会を生き抜くための確かな学力、社会と関わり他者と協働できる力、粘り強くじっくり取り組むことができる心と体を育成しています。

本調査が、児童生徒の学力の全てを表すものではないことに留意しつつ、今年度の桑名市の結果を踏まえ、今後の取組を進めていきます。

子どもたちの学力向上や健やかな成長には、子どもたちの学びの基盤になる日々の生活習慣を整えていくことが重要です。ご家庭では、睡眠や食事など、お子さんの生活のリズムを整えていただけたらと思います。

また、本調査の結果からは、「自分には、良いところがある」と思っている子どもほど、学力が高くなる傾向がわかっています。家族で過ごす時間には、学校での様子をお子さんに聞いていただき、がんばりを認め、励ましてあげてください。

これからも、学校と家庭、地域が一体となって、子どもたちの成長を支えていけるよう、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。